

NEWS LETTER

15時00分解禁

平成27年3月 全国百貨店売上高概況

平成27年4月21日

I. 概況

1. 売上高総額	5,441億円余
2. 前年同月比	-19.7% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス)
3. 調査対象百貨店	82社 239店 (平成27年2月対比-1社1店)
4. 総店舗面積	6,053,548㎡ (前年同月比:-2.8%)
5. 総従業員数	77,519人 (前年同月比:-2.5%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 -1.1%、9-11月 -1.3%、10-12月 -1.6%、 11-1月 -1.8%、12-2月 -1.3%、1-3月 -8.6%

[参考] 平成26年3月の売上高増減率は25.4% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

3月は、昨年の駆け込み需要による高伸(+25.4%/全国・店舗数調整後)の反動減と、休日が前年比2日減の影響もあり、前年同月比19.7%減と大きく減少。しかしながら、特殊要因を除く一昨年との対比では0.6%増を確保。全地区で二桁減となったが、好天に恵まれたことに加え、反動減対策の催事が好調だったことやインバウンド効果などにより、東京、大阪をはじめ、札幌、名古屋、福岡など主要都市では、一昨年対比でプラスを記録することができた。

主要品目は、食料品が-5.7%と比較的小幅な減少にとどまる健闘を見せたが、その他の品目で大幅マイナスを余儀なくされた。特に昨年3月に統計開始以来最高売上伸率を示した身のまわり品や雑貨、ウエイトの高い衣料品に影響が及んだ。細分類でも駆け込み需要で数字を伸ばした化粧品、家具などの落ち込みが激しかったものの、株高や企業収益の改善とそれに伴う賃上げ期待による消費マインドの向上、外国人売上高による底上げなどにより、身のまわり品や雑貨、化粧品、美術・宝飾・貴金属、家具などの細分類も一昨年実績を上回った。

訪日外国人売上高については、ビザ緩和の影響や円安効果に加え、下旬からの花見ツアー客増加を受けて、引き続き売上高(+218.6%)、客数(+251.7%)共に大幅な伸長を見せた。商品ではラグジュアリーブランドや高級時計、化粧品のほか、日本酒や国産ウイスキーにも動きが出ているとの報告を受けている。

【要因】

(1) 天候：気象庁発表「3月の天候」の特徴は以下のとおり (一部抜粋)

◇シベリア高気圧の張り出しが弱く北からの寒気の南下が弱かったこと、日本の東海上で高気圧の勢力が強かったことで、北・東日本で月平均気温が高く、特に北日本では1946年の統計開始以来3月として1位の高温だった。

(2) 営業日数増減 30.9日 (前年同月比±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 9日 (〃 -2日)

(4) 入店客数増減 (回答店舗数で見える傾向値/前年同月比/有効回答数134店舗)

①増加した：18店、②変化なし：21店、③減少した：95店

(5) 3月歳時記 (ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活) の売上 (同上/有効回答数98店舗)

①増加した：6店、②変化なし：53店、③減少した：39店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2015年03月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	544,192,941	100.0	-19.7 (-20.2)
10都市	362,138,345	66.5	-19.9 (-20.0)
札幌	13,908,386	2.6	-19.5
仙台	7,502,628	1.4	-23.7
東京	143,295,646	26.3	-16.5
横浜	31,780,565	5.8	-20.7
名古屋	35,155,093	6.5	-25.0
京都	21,479,645	3.9	-25.1 (-26.8)
大阪	65,872,466	12.1	-22.1
神戸	14,203,887	2.6	-21.1
広島	11,210,513	2.1	-18.9
福岡	17,729,516	3.3	-17.8
10都市以外の地区	182,054,596	33.5	-19.3 (-20.5)
北海道	3,060,409	0.6	-20.0
東北	9,521,060	1.7	-19.7
関東	85,670,011	15.7	-19.8
中部	13,154,150	2.4	-18.4
近畿	23,204,874	4.3	-15.1
中国	11,930,463	2.2	-22.8
四国	9,179,917	1.7	-22.2 (-30.6)
九州	26,333,712	4.8	-18.9 (-23.2)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	544,192,941	100.0	-19.7 (-20.2)
紳士服・洋品	36,064,546	6.6	-15.1 (-15.5)
婦人服・洋品	120,664,904	22.2	-18.6 (-19.1)
子供服・洋品	22,698,655	4.2	-11.5 (-11.7)
その他衣料品	12,537,126	2.3	-37.7 (-38.2)
衣 料 品	191,965,231	35.3	-18.8 (-19.3)
身のまわり品	71,575,484	13.2	-25.8 (-26.1)
化粧品	35,831,389	6.6	-25.8 (-26.1)
美術・宝飾・貴金属	30,698,935	5.6	-44.9 (-45.1)
その他雑貨	22,001,404	4.0	-17.2 (-18.2)
雑 貨	88,531,728	16.3	-32.2 (-32.6)
家 具	7,630,528	1.4	-35.4 (-35.9)
家 電	1,487,463	0.3	-35.4 (-35.6)
その他家庭用品	17,300,628	3.2	-24.2 (-24.6)
家 庭 用 品	26,418,619	4.9	-28.5 (-28.9)
生 鮮 食 品	25,179,386	4.6	-7.0 (-8.0)
菓 子	45,443,019	8.4	-3.3 (-3.8)
惣 菜	28,395,816	5.2	-4.4 (-4.8)
その他食料品	34,851,115	6.4	-8.7 (-9.4)
食 料 品	133,869,336	24.6	-5.7 (-6.3)
食 堂 喫 茶	14,733,291	2.7	-6.4 (-6.8)
サ ー ビ ス	6,259,083	1.2	-13.6 (-13.8)
そ の 他	10,840,169	2.0	-15.1 (-15.9)
商 品 券	14,107,503	2.6	-11.5 (-11.7)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -19.9% (店舗数調整後/2か月ぶりマイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -19.3% (店舗数調整後/12か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-19.9	-13.3	2か月ぶりマイナス
札幌	-19.5	-0.5	2か月ぶりマイナス
仙台	-23.7	-0.3	2か月ぶりマイナス
東京	-16.5	-4.2	5か月ぶりマイナス
横浜	-20.7	-1.2	2か月ぶりマイナス
名古屋	-25.0	-1.7	4か月連続マイナス
京都	-25.1	-1.1	8か月連続マイナス
大阪	-22.1	-2.7	8か月ぶりマイナス
神戸	-21.1	-0.6	7か月連続マイナス
広島	-18.9	-0.4	12か月連続マイナス
福岡	-17.8	-0.6	4か月連続マイナス
10都市以外の地区	-19.3	-6.4	12か月連続マイナス
北海道	-20.0	-0.1	12か月連続マイナス*
東北	-19.7	-0.3	2か月ぶりマイナス*
関東	-19.8	-3.1	2か月ぶりマイナス
中部	-18.4	-0.4	6か月連続マイナス
近畿	-15.1	-0.6	12か月連続マイナス
中国	-22.8	-0.5	12か月連続マイナス*
四国	-22.2	-0.4	2か月ぶりマイナス
九州	-18.9	-0.9	2か月ぶりマイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、昨年10月以来5か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、駆け込み需要の反動から、6月以来9か月ぶりにその他の品目もマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-19.7	—	2か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-15.1	-0.9	2か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-18.6	-4.1	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-11.5	-0.4	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-37.7	-1.1	6か月連続マイナス
衣料品	-18.8	-6.6	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-25.8	-3.7	4か月連続マイナス
化粧品	-25.8	-1.8	9か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-44.9	-3.7	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-17.2	-0.7	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-32.2	-6.2	5か月ぶりマイナス
家具	-35.4	-0.6	12か月連続マイナス
家電	-35.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-24.2	-0.8	7か月連続マイナス
家庭用品	-28.5	-1.6	12か月連続マイナス
生鮮食品	-7.0	-0.3	12か月連続マイナス*
菓子	-3.3	-0.2	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-4.4	-0.2	2か月ぶりマイナス*
その他食料品	-8.7	-0.5	2か月ぶりマイナス*
食料品	-5.7	-1.2	2か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-6.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	-13.6	-0.1	2か月ぶりマイナス
その他	-15.1	-0.3	3か月ぶりマイナス
商品券	-11.5	-0.3	49か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

平成27年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年4月21日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 432億円余
2. 前年同月比	-16.5% (5か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-16.8%(89.7%) : 非店頭-14.1%(10.3%) () 内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,897㎡ (前年同月比:-1.9%)
6. 総従業員数	18,814人 (前年同月比:0.4%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 0.5%、9-11月 0.2%、10-12月 0.2%、 11-1月 0.4%、12-2月 1.7%、1-3月 -5.1%

[参考] 平成26年3月の売上高増減率は25.5% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

- (1) 3月の入店客数は、前年の健闘や本年休日2日減などの影響を受けながらも、天候に恵まれたことや、訪日観光客数増などのプラス要因により、4%程度の減少にとどまった。
- (2) 商品別では、駆け込み需要の影響で全品目が前年実績を下回ったが、一昨年対比では、衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品の主要5品目が全てプラスを記録するなど、消費マインドの底堅さを示した。
- (3) 個別商材では、月全般を通じ気温が高めに推移したことで、前月に引き続いてスプリングコートやニット、カットソーなど春物の動きが好調。また、ホワイトデーは14日が土曜日と重なる条件の中、各店が新規導入したブランドや有名パティシエの商品に人気が集まり、先行展開の成果もあって高額品を中心に好実績を残した。
- (4) 高額付加価値商材は、ラグジュアリーブランド(身のまわり品+8.5%/一昨年比)、高級時計(美術・宝飾・貴金属+14.9%/一昨年比)が引き続き堅調。化粧品についても前年比2桁減を記録したものの、昨年の高伸(+64.4%)を勘案すると極めて堅調に推移した(+35.9%/一昨年比)。また、各社が独自に取り組むPB(プライベートブランド)商品や、各種催事と連動した限定アイテムなどが人気を集めたほか、街全体を盛り上げるため開催した地区内百貨店との共同催事も集客に貢献した。
- (5) 4月の商況は、昨年の消費税増税直後の反動(-10.8%)もあって、15日段階ではプラス20%強で推移しており、GWを中心に客数、売上共に更なる上積みが期待される。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 9店
- (3) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上(同上/有効回答数9店舗)
①増加した: 0店、②変化なし: 4店、③減少した: 5店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	143,295,646	100.0	-16.5
紳士服・洋品	11,590,073	8.1	-11.5
婦人服・洋品	28,812,904	20.1	-15.2
子供服・洋品	5,875,451	4.1	-6.9
その他衣料品	2,515,279	1.8	-37.0
衣 料 品	48,793,707	34.1	-14.9
身のまわり品	20,615,548	14.4	-17.7
化粧品	10,135,234	7.1	-17.3
美術・宝飾・貴金属	9,270,961	6.5	-43.5
その他雑貨	6,699,551	4.7	-16.7
雑 貨	26,105,746	18.2	-28.9
家 具	2,369,765	1.7	-34.3
家 電	864,780	0.6	-25.4
その他家庭用品	4,566,699	3.2	-18.5
家 庭 用 品	7,801,244	5.4	-24.8
生 鮮 食 品	4,544,457	3.2	-5.6
菓 子	10,857,970	7.6	-2.4
惣 菜	6,554,492	4.6	-2.7
その他食料品	8,502,986	5.9	-5.4
食 料 品	30,459,905	21.3	-3.8
食 堂 喫 茶	3,266,739	2.3	-5.5
サ ー ビ ス	2,801,326	2.0	-4.6
そ の 他	3,451,431	2.4	-16.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	3,027,042 千円	-10.6
従 業 員 数	18,814 人	0.4
店 舗 面 積	854,897 m ²	-1.9

営 業 日 数	31.0 日	前 年	31.0 日
---------	--------	-----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、昨年6月以来9か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、駆け込み需要の反動が大きかった4月以来11か月ぶりにその他の品目もマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-16.5	—	5か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-11.5	-0.9	9か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-15.2	-3.0	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-6.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-37.0	-0.9	7か月連続マイナス
衣料品	-14.9	-5.0	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-17.7	-2.6	9か月ぶりマイナス
化粧品	-17.3	-1.2	9か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-43.5	-4.2	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-16.7	-0.8	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-28.9	-6.2	6か月ぶりマイナス
家具	-34.3	-0.7	12か月連続マイナス
家電	-25.4	-0.2	4か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-18.5	-0.6	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-24.8	-1.5	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-5.6	-0.2	12か月連続マイナス*
菓子	-2.4	-0.2	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-2.7	-0.1	4か月ぶりマイナス*
その他食料品	-5.4	-0.3	3か月ぶりマイナス*
食料品	-3.8	-0.7	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-5.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	-4.6	-0.1	5か月ぶりマイナス
その他	-16.7	-0.4	3か月ぶりマイナス
商品券	-10.6	-0.2	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関・西田まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>